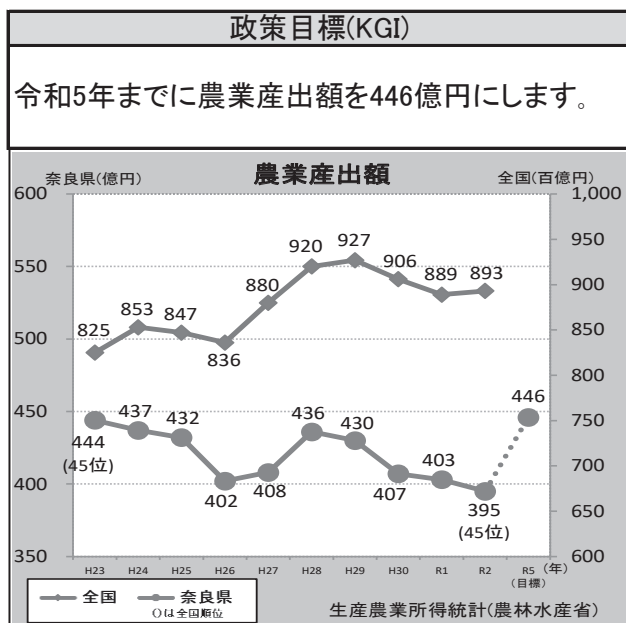


Ⅶ 豊かな「都」をつくる

坊	
22	農業・農地・農村・食と農の振興
23	畜産・水産業振興

担当部局等	
食と農の振興部	

政策目標(KGI)達成に向けた進捗状況



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H23年	R2年	R2年	88.7%	R5年
444	▲49億円 395	445.5	③90%未満	446 (基準値未満)
指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)				
令和2年の農業産出額は、前年より8億円減少し、395億円となりました。また、平成29年から農業産出額は減少傾向にあり、実績値が基準値を下回っています。				
背景・要因等				
高品質生産に向けた支援等への取組により、令和2年は、野菜で9億円、花きで2億円増加しました。一方で、ヒョウunkによる被害発生で米の産出額が15億円減少しました。				

関連する戦略目標(KPI)の進捗状況

テーマ 戦略目標(KPI)	基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
			目安値(b)	進捗率(a/b)	
(111) 特定農業振興ゾーンの整備 令和6年度までに特定農業振興ゾーンを累計10地区にします。	R1年度 6	▲ R3年度 9	R3年度 7.6	118.4% ①100%以上	R6年度 10 (75.0%)
(112) 農地マネジメントの推進 令和5年度までに担い手への農地の集積率を34.0%にします。	H25年度 12.2	▲ R3年度 19.5	R3年度 29.6	65.8% ③90%未満	R5年度 34.0 (33.5%)
(113) 中央卸売市場の再整備 令和10年度までに地域に開かれたにぎわいのある中央卸売市場を整備します。	令和3年12月に「奈良県中央卸売市場再整備の基本方針」を策定し、市場エリアと賑わいエリアを一体的に整備することとしました。				
(114) NAFIC教育の充実と周辺の整備 令和6年度までにNAFIC周辺地域の交流人口を43,000人にします。	H27年度 13,370	▲6,468人 R3年度 6,902	R3年度 33,123.3	20.8% ③90%未満	R6年度 43,000 (基準値未満)
(115) 奈良県豊かな食と農の振興条例の推進 「奈良県豊かな食と農の振興計画」に基づいて施策を推進します。	令和3年4月1日に策定した「奈良県豊かな食と農の振興計画」に基づき、「奈良の食の魅力づくり」、「食を通じた健康増進と子どもの健全育成」、「戦略的な販売の推進」、「生産振興」にむけて、施策や事業を推進しました。				
(116) 食品ロス削減への対応 令和6年度までに食品ロス問題を「よく知っている」県民の割合を90%にします。	R1年度 37.4	▲ R3年度 54.1	R3年度 58.4	92.6% ②(90~100%)	R6年度 90 (31.7%)

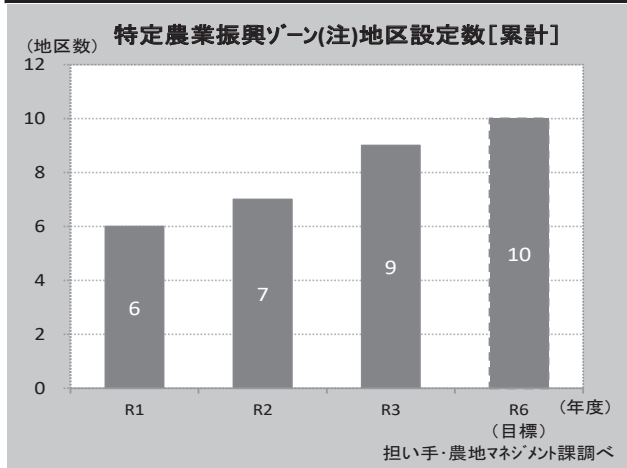
テーマ 戦略目標(KPI)	基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値 (達成率)	
			目安値(b)	進捗率(a/b)		
(117) 食肉公社の適切な運営と大和畜産ブランド力の向上 令和6年度までに大和牛の肉質(4等級以上)の割合を80.0%以上にします。	H27年度	↗ R3年度	R3年度	114.0%	R6年度	
	67.3	+19.1 ポイント	86.4	75.8	①100%以上	80.0 (150.4%)
(118) みつえ高原牧場の整備 令和10年度に畜産団地をオープンします。	畜産団地に必要な水源の調査を進め、令和3年度までに、必要な水量をおおむね8割確保しました。					
(119) 内水産業の振興 令和6年度までに金魚やアマゴ等の養殖生産額を10億円に、アユやアマゴ等の総漁獲量を120トンにします。	H26年度		R2年度	R2年度		R6年度
	養殖生産額 7.8	↘ ▲0.2 億円	7.6	9.1	83.3% ③90%未満	10.0 (基準値未満)
	総漁獲量 82	↗ +33 トン	115	104.8	109.7% ①100%以上	120 (86.8%)

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	22 農業・農地・農村・食と農の振興
テーマ	(111) 特定農業振興ゾーンの整備

CC(チーフコーディネーター)
食と農の振興部
担い手・農地マネジメント課長

戦略目標(KPI)
令和6年度までに特定農業振興ゾーンを累計10地区にします。



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
R1年度	R3年度 9	R3年度	118.4%	R6年度
6		7.6	①100%以上	10 (75.0%)

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

令和3年度までに3市4町の9地区で、特定農業振興ゾーンの設定を行いました。目標の累計10地区に向けて、順調に進捗しています。

背景・要因等

意欲ある市町村や農業関係者との協議を行った結果、令和3年度はこれまでに特定農業振興ゾーンの設定がなかった北部農業振興事務所管内の大和郡山市の三橋、平群町の上庄・梨本の2地区で特定農業振興ゾーンの設定を行うことができました。

(注)特定農業振興ゾーン…県内の農地を有効活用し、農業の生産性の向上を図るために設定する地域で知事が定めるもの。

KPI達成に向けた取組・成果

取組	取組内容	成果	成果内容
①	農業振興を図るために、規模拡大を目指す担い手や集落営農組織への支援、新規就農者の育成を実施しています。	成果①	令和3年度は、田原本町の法貴寺地区で新たにイゴ農家1名が就農しました。
②	優良農地における競争力強化のために、県営ほ場整備を3地区、水利施設整備や更新を4地区で実施しています。	成果②	令和3年度は、約1haのほ場整備を行いました。また、水利施設整備や更新をした結果、農業用水の安定的な供給が進んでいます。

KPI関連指標	指標の動き			指標の動きの要因
	H30年度	R1年度	R2年度	
ゾーン設定地区の農業産出額(百万円)	254	282	293	営農取組の成果により、農業産出額は増加しています。

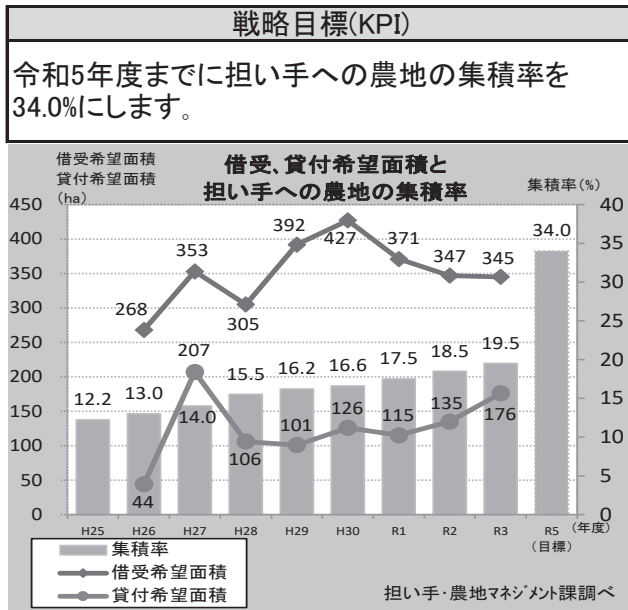
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
新たな特定農業振興ゾーンの地区設定にあたり、市町村や農業関係者との協議調整や地域の同意を得ることが困難です。	保守的な考え方が強いため、高収益作物栽培の実施など、新たな営農体系の取り組みが難しい地域が数多くあります。	市町村や地域と協働して、地域の特徴を踏まえた高収益作物への転換等を計画することで、特定農業振興ゾーンの設定に結びつけます。 引き続き、市町村や農業関係者との協議調整を行うとともに、地域の同意が得られるように丁寧な説明を行います。
	今年度の取組(~7月)	
	市町村や農業関係者との協議を行っています。	

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	22 農業・農地・農村・食と農の振興
テーマ	(112) 農地マネジメントの推進

CC(チーフコーディネーター)
食と農の振興部
担い手・農地マネジメント課長



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H25年度	R3年度	R3年度	65.8%	R5年度
12.2	+7.3ポイント 19.5	29.6	③90%未満	34.0 (33.5%)

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

農地の集積率は、基準値の12.2%から7.3ポイント増加して19.5%になりましたが、進捗率は65.8%と伸び悩んでいます。

背景・要因等

農地中間管理事業の推進により、農地の集積率は着実に増加しています。一方、高収益作物となるイチゴや野菜等の面積規模の小さい作物のマッチングが中心であるため、集積率は伸び悩んでいます。

KPI達成に向けた取組・成果		
取組①	担い手への農地集積を図るため、地域の話合いに基づき、地域農業の中心となる経営体や将来の農地の出し手の状況等を明確にする「人・農地プラン」の策定を推進しています。	成果① 令和3年度は、新たに111集落で「人・農地プラン」が策定されました。
取組②	草刈り等の管理はしているが、耕作する予定のない「隠れ耕作放棄地」を選別するマニュアルを作成しました。	成果② 「隠れ耕作放棄地」の所有者に対して、農地中間管理事業の活用を働きかけることで、担い手への農地集積を進めています。

KPI関連指標	指標の動き				指標の動きの要因			
農地中間管理事業によるマッチング面積 [累計](ha)	H30年度	↗	R1年度	↗	R2年度	↗	R3年度	農地中間管理事業の推進により、マッチング面積は増加しています。
	456.4	+91.8 ha	548.2	+133.0 ha	681.2	+148.9 ha	830.1	
「人・農地プラン」の策定完了集落数 [累計](集落)	/		R1年度	↗	R2年度	↗	R3年度	市町村の取組成果により、「人・農地プラン」の策定完了集落数は増加しています。
	/		34	+208 集落	242	+111 集落	353	

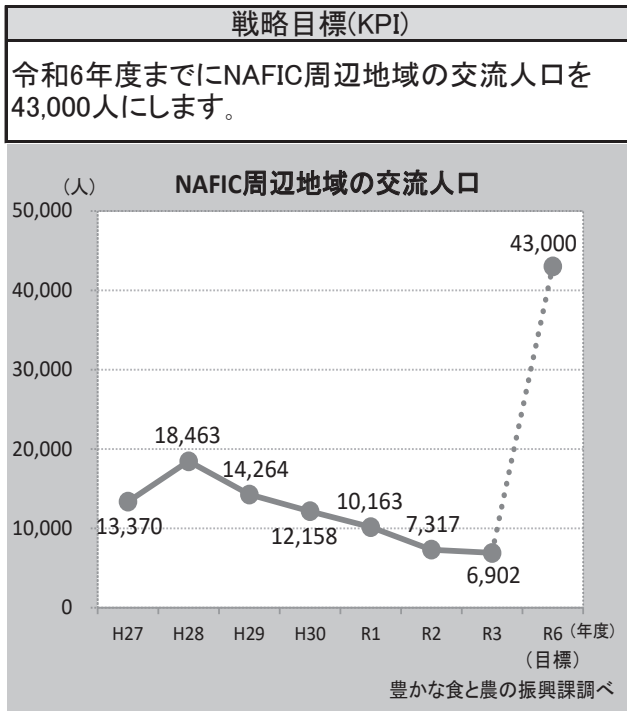
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
担い手が減少していくことが懸念されます。	集落住民の高齢化や、後継者不足が、担い手減少の要因となっています。	規模拡大を目指す担い手への支援、集落営農組織への支援、新規就農者の育成により、引き続き、担い手を確保します。
	<p>今年度の取組(~7月)</p> <p>市町村や農業委員会等と連携しながら、農地のマッチングを推進しています。</p>	

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	22 農業・農地・農村・食と農の振興
テーマ	(114) NAFIC教育の充実と周辺の整備

CC(チーフコーディネーター)
食と農の振興部
豊かな食と農の振興課長



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H27年度	R3年度	R3年度	20.8%	R6年度
13,370	6,902	33,123.3	③90%未満	43,000 (基準値未満)

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

平成28年度は増加しましたが、それ以降は減少傾向にあり、令和3年度は前年より415人減少し、6,902人になりました。進捗についても、基準値である平成27年度を6,468人下回りました。

背景・要因等

平成27年9月の「オーベルジュ・ぷれざんす 桜井」オープンから約1年間は知名度アップのため、通常よりも低価格でのランチ提供や座席増などの取組を実施、また平成28年度は、オープン後初めての通年営業により、交流人口は増加しました。平成28年4月のNAFIC(注)開校以降は、オーベルジュの本来の目的であるNAFICの実践実習に注力するため、実習に支障のない範囲での集客としていることや、新型コロナウイルス感染症拡大による旅行・外食控え等により、交流人口は減少傾向となっています。

(注)NAFIC…奈良県立なら食と農の魅力創造国際大学校

KPI達成に向けた取組・成果		
取組①	令和4年9月にオープン予定の貸会議室・宿泊施設・カフェレストランを備えた「NAFIC附属セミナーハウス」の整備を進めています。	成果① 令和4年3月に「NAFIC附属セミナーハウス」が竣工しました。また、運営事業者が決定しました。
取組②	NAFICの教育機能の充実のため、令和3年度より、再編したカリキュラムに基づき、学生の希望進路に沿った学校教育を実施しています。	成果② フードクリエイティブ学科の入学者が、令和3年度に開校以来初めて定員を達成しました。

KPI関連指標	指標の動き				指標の動きの要因			
南部・東部観光客数(千人)	H29年 21,788	↑ + 89 千人	H30年 21,877	↑ + 624 千人	R1年 22,501	↓ ▲ 6,927 千人	R2年 15,574	新型コロナウイルス感染症拡大により、観光客数は減少しました。

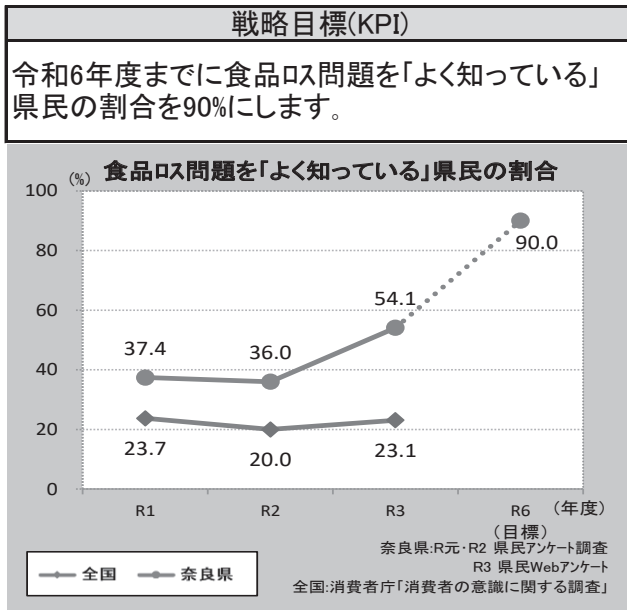
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
コロナ禍での施設への集客やイベント実施方法を検討して、交流人口を増加させる必要があります。	交流人口が減っているのは、全国的な新型コロナウイルス感染症の拡大による旅行客等の減少が大きな要因であると考えられます。	「NAFIC附属セミナーハウス」において食と農の魅力を発信するとともに、地元自治体、協議会等と連携し、NAFIC周辺の賑わいづくりを創出します。 再編したカリキュラムに基づき、学生の希望進路に沿った学校教育を継続します。また、スペイン・バスク地方にある世界的な4年制の料理専門大学であるBCC(バスクリサーチセンター)と協定を締結し、交流事業を実施していきます。
	今年度の取組(~7月)	
	令和4年9月オープンに向け、外構工事、備品の購入など、引き続き「NAFIC附属セミナーハウス」の整備を進めています。	

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	22 農業・農地・農村・食と農の振興
テーマ	(116) 食品ロス削減への対応

CC(チーフコーディネーター)
食と農の振興部
豊かな食と農の振興課長



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値 (達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
R1年度	37.4 +16.7 ポイント	R3年度	92.6%	R6年度
		58.4	②(90~100%)	90 (31.7%)
指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)				
食品ロス問題を「よく知っている人」の割合は、令和元年度以降全国の数値を上回っています。令和2年度には基準値である令和元年度を下回りましたが、令和3年度は基準値を上回り、目標値に近づいています。				
背景・要因等				
目標達成に向けて、食品ロス削減啓発のためのエコバッグ*及びびりフルーツを作成・配布しました。また、スーパーと連携し、「てまえどりPOP」を掲示したほか、「奈良県食品ロス削減推進フォーラム」を開催し、食品ロスを記録できるツールを紹介するなど、食品ロス削減の周知を図りました。				

KPI達成に向けた取組・成果		
取組①	「奈良県未利用食品活用促進事業補助金」により、フードバンク活動の支援を行っています。	成果① 未利用食品の集配送のルート構築のための備品の整備や、配送にかかる経費などを補助しました。
取組②	奈良県産業廃棄物等実態調査において、廃棄物排出事業者へ食品ロスについてのアンケート調査を行いました。	成果② 調査の対象とした事業所のうち、約半数で食品ロスが発生していることが判明しました。また、その原因については、食品ロスが発生していると回答した事業所の半数近くにおいて「食べ残し」であることが判明しました。

KPI関連指標	指標の動き						指標の動きの要因	
食品ロス削減に取り組む市町村数[累計](市町村)	H30年度	↑	R1年度	→	R2年度	↑	R3年度	市町村を対象に「食品ロス削減推進計画」策定の説明会を実施しました。
	10	+6 市町村	16	+0 市町村	16	+3 市町村	19	

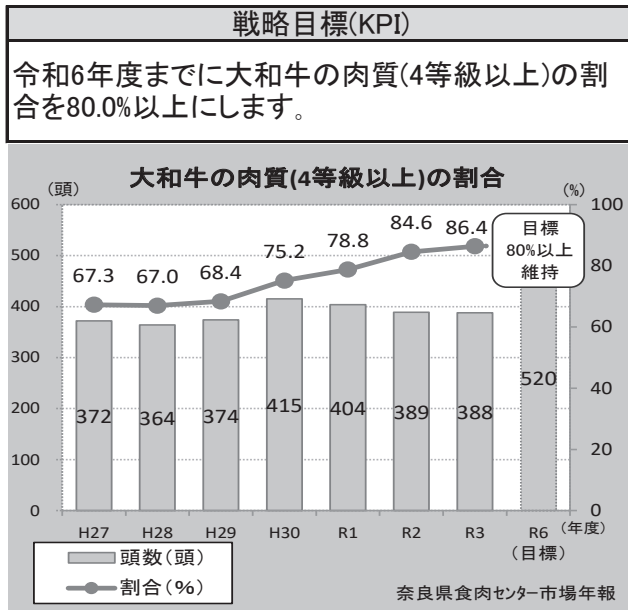
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
食品ロス問題について深く知る機会の提供が必要です。	<p>全体的に認知度は高まっていますが、深く知る機会が少ないのは、食品ロス問題について、理解を深化させる啓発イベントや情報の提供が不足していることが要因であると考えられます。</p> <p>今年度の取組(~7月)</p> <p>食品ロスについてのポータルサイトの運用に向けて、掲載内容の検討などを行っています。</p>	<p>食品ロスについての理解を深められるよう、食品ロスに関する情報を一元的に集約するポータルサイトを構築します。サイトの構築にあたっては、県民Webアンケートや奈良県産業廃棄物等実態調査の結果を参考に、消費者・事業者・行政がそれぞれの立場で必要とする情報を入手できるよう工夫します。</p> <p>引き続き、スーパーと連携して「てまえどりPOP」を掲示します。また、人が多く訪れるショッピングモールで啓発イベントを実施します。</p>

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	23 畜産・水産業振興
テーマ	(117) 食肉公社の適切な運営と大和畜産ブランド力の向上

CC(チーフコーディネーター)
食と農の振興部
畜産課長



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H27年度	R3年度	R3年度	114.0%	R6年度
67.3	+19.1 ポイント 86.4	75.8	①100%以上	80.0 (150.4%)
指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)				
令和3年度は、大和牛のうち4等級以上の占める割合は、前年度から1.8ポイント向上し、目標値である80%以上を維持しています。一方で、大和牛全体の生産頭数は3年連続で減少しています。				
背景・要因等				
ブランド認証制度(平成28年12月開始・奈良県プレミアムセレクト大和牛)の実施や、資質の良い子牛を購入した場合の補助(令和元年度～)等を継続して実施した結果、大和牛の品質は向上・維持しています。一方で、大和牛の生産頭数はコロナ禍の影響により減少しています。				

KPI達成に向けた取組・成果		
取組	令和元年度より資質の良い子牛の購入に対する補助を実施しています。大和牛生産頭数が減少傾向であるため、補助対象の条件を変更し、大和牛品質の維持に加え、生産頭数の維持及び増加も図っています。	成果
		補助対象となる資質の良い子牛の購入が想定約1.4倍に上り、4等級以上の大和牛の生産頭数は増加する見込みです。

KPI関連指標	指標の動き						指標の動きの要因
奈良県プレミアムセレクト大和牛の認証頭数(頭)	H30年度	↘	R1年度	↗	R2年度	↘	大和牛の肉質の底上げは進んでいます、「とびきり」の品質の産品を認証するプレミアムセレクトの認証増には至っておらず、認証率5%前後で推移しています。
	32	▲12頭	20	+7頭	27	▲7頭	
大和牛の生産頭数(頭)	H30年度	↘	R1年度	↘	R2年度	↘	コロナ禍による和牛肉消費の停滞と飼料価格高騰により減少傾向です。
	552	▲39頭	513	▲53頭	460	▲11頭	

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

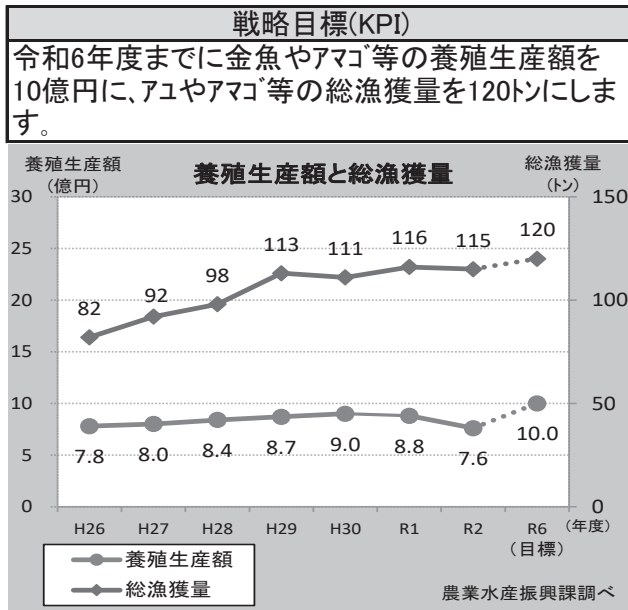
KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
引き続き、4等級以上の割合を維持しつつ、大和牛の生産頭数の増加を図ることが必要です。	目標値を達成してはいるものの、高品質な大和牛の生産を継続していくことが重要であることから、引き続き、4等級以上の割合80%を維持する必要があります。	高品質大和牛の生産を継続するために、認証制度や補助事業を続けていくとともに、ヤマトホークや大和肉鶏でも品質や生産性の向上を目指した試験研究などを進め、大和畜産ブランド全体の上質化とブランド力の向上を進めます。
	今年度の取組(～7月)	

(注)HACCP… 工程上の危害を分析(HA)し、それを最も効率的に管理できる部分(CCP:必須管理点)を連続的に管理して安全を確保する手法

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	23 畜産・水産業振興
テーマ	(119) 内水産業の振興

CC(チーフコーディネーター)
食と農の振興部
農業水産振興課長



基準値	実績値 (a)	進捗状況		目標値 (達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H26年度	R2年度	R2年度		R6年度
7.8	7.6	9.1	83.3%	10.0 (基準値未滿)
82	115	104.8	109.7%	120 (86.8%)

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

令和2年度の養殖生産額は、令和元年度より1.2億円減少し、基準値より0.2億円減少しました。総漁獲量は、令和元年度より1トン減少したものの目安値を上回っています。

背景・要因等

新型コロナウイルス感染症の影響で、お祭り・イベントが激減したため、金魚すくい用の金魚の販売が減少しています。総漁獲量は、紀伊半島大水害からの漁場の回復により徐々に増加しています。

KPI達成に向けた取組・成果		
取組①	養殖生産額向上のため、養殖魚の疾病対策及びカワウ食害対策に継続して取り組んでいます。	成果① 養殖場の巡回指導、水産用医薬品の適正使用の指導及び養殖魚の疾病診断を5件実施しました。また、カワウの捕獲に取り組む市町村に、補助金による支援を3件行いました。
取組②	総漁獲量増加のため、アユの冷水病の発生抑制及びアマゴのゾーニング管理等による増殖促進に取り組んでいます。	成果② 病気にかかっていないアユの放流及びアマゴの親魚放流・卵放流・産卵場造成等に取り組む奈良県漁業協同組合連合会に、補助金による支援を行いました。

KPI関連指標	指標の動き						指標の動きの要因
高級品種の販売額の割合(%)	H30年度	↘	R1年度	↗	R2年度	↗	金魚すくい用の金魚から高級品種の養殖へ転換する取組を支援しました。
	33.2	▲1.0 ポイント	32.2	+4.2 ポイント	36.4	+2.2 ポイント	
遊漁者数(千人)	H29年度	↘	H30年度	↗	R1年度	↘	アユ・アマゴの増殖支援等を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響で横ばいとなりました。
	29	▲1 千人	28	+1 千人	29	▲1 千人	

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
①金魚すくい用の金魚の販売が減少しており、引き続き金魚の高級品種への切り換えが必要です。 ②河川における遊漁者数が横ばいで推移しています。	①金魚の高級品種を生産するための親魚と生産技術が不足しています。 ②若者の釣りを始める機会がなく、遊漁者が高齢化しています。	①多くの金魚養殖業者が高級品種の生産に取り組めるように大和郡山市と連携し、高級品種の親魚の導入及び生産技術の向上に支援します。 ②釣り教室の開催や遊漁券のオンライン販売を促進するとともに、川魚の食としての魅力を発信します。
	今年度の取組(~7月) ①金魚養殖業者7業者が高級品種の生産開始を決定しました。 ②奈良県漁業協同組合連合会と連携して釣り教室を5ヵ所で実施しました。	

数値目標が設定されていないテーマ等の進捗状況、課題の明確化、今後の取組方針

坊	22 農業・農地・農村・食と農の振興	CC	食と農の振興部 中央卸売市場再整備推進室長
テーマ	(113) 中央卸売市場の再整備		
戦略目標(KPI)		進捗状況及び取組・成果	
令和10年度までに地域に開かれたにぎわいのある中央卸売市場を整備します。		令和3年12月に「奈良県中央卸売市場再整備の基本方針」を策定し、市場エリアと賑わいエリアを一体的に整備することとしました。	
KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針	
にぎわいのある市場整備のために民間の柔軟な発想が生み出すアイデアが必要です。	市場エリアと賑わいエリアを有機的に連携させて、にぎわいを創出していくためには、従来の考え方にとらわれない多様な意見を聞くことが必要です。	<p>アイデアを参考に整備施設の内容や施設レイアウト、民間活力を活用した整備手法など、整備事業者の公募要件を決定していきます。</p> <p>市場エリアと賑わいエリアを一括で整備する事業者の公募手続きに着手していきます。</p>	
	今年度の取組(~7月)		

坊	22 農業・農地・農村・食と農の振興	CC	食と農の振興部次長 (食と農の振興部企画管理室長事務取扱)
テーマ	(115) 奈良県豊かな食と農の振興条例の推進		
戦略目標(KPI)		進捗状況及び取組・成果	
「奈良県豊かな食と農の振興計画」に基づいて施策を推進します。		令和3年4月1日に策定した「奈良県豊かな食と農の振興計画」に基づき、「奈良の食の魅力づくり」、「食を通じた健康増進と子どもの健全育成」、「戦略的な販売の推進」、「生産振興」にむけて、施策や事業を推進しました。	
KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針	
食と農の政策の総合的な推進が必要です。	各施策や事業間での連携した推進により効果的に実施する必要があります。	<p>引き続き、各施策や事業の関係者間での協議を実施し、各施策や事業を効果的に実施していきます。</p> <p>「奈良の食の魅力づくり」、「食を通じた健康増進と子どもの健全育成」、「戦略的な販売の推進」、「生産振興」の施策や事業ごとの進捗状況・課題を整理し、次年度以降の取組に反映させていきます。</p>	
	今年度の取組(~7月)		

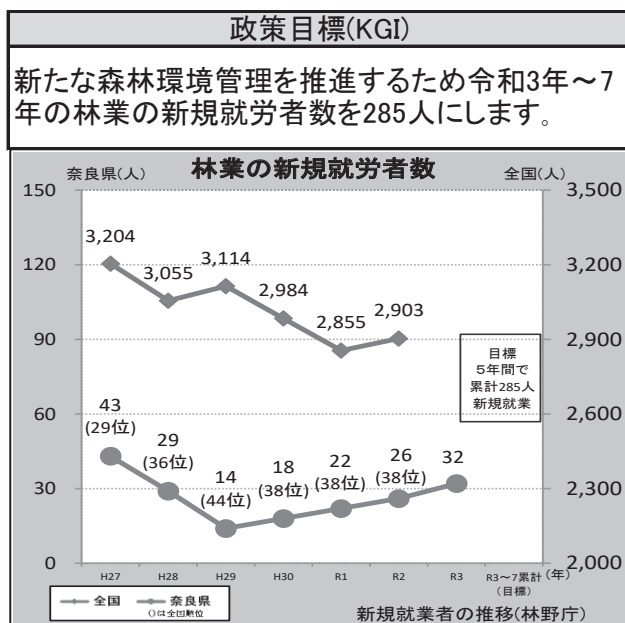
坊	23 畜産・水産業振興	CC	食と農の振興部 畜産課長
テーマ	(118) みつえ高原牧場の整備		
戦略目標(KPI)		進捗状況及び取組・成果	
令和10年度に畜産団地をオープンします。		畜産団地に必要な水源の調査を進め、令和3年度までに、必要な水量をおおむね8割確保しました。	
KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針	
畜産団地整備に向けた、設計業務の実施が必要です。	必要な水量をおおむね8割確保できることを確認できましたが、さらに水の供給方法等について調査を進めつつ、畜産団地の整備に向けた設計業務を実施する必要があります。	<p>基本設計業務の実施に向け、地形測量に着手します。また、給水計画の他、畜舎等の配置や規模等についての具体的な方向性の検討を行い、基本設計業務に必要な諸条件の整理を行います。</p>	
	今年度の取組(~7月)		

Ⅶ 豊かな「都」をつくる

坊
24 森林環境管理・林業振興

担当部局等
水循環・森林・景観環境部

政策目標(KGI)達成に向けた進捗状況



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
	R3年	R3年	56.1%	R7年
	32	57	③90%未満	285 (11.2%)
指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)				
全国の新規就労者数は減少傾向にある中で、奈良県の新規就労者数は、平成30年度から令和3年度まで4年連続で増加しました。				
背景・要因等				
就労希望者への働きかけや奈良県が行っている林業事業体への各種支援等によって、雇用が拡大していることによると考えられます。				

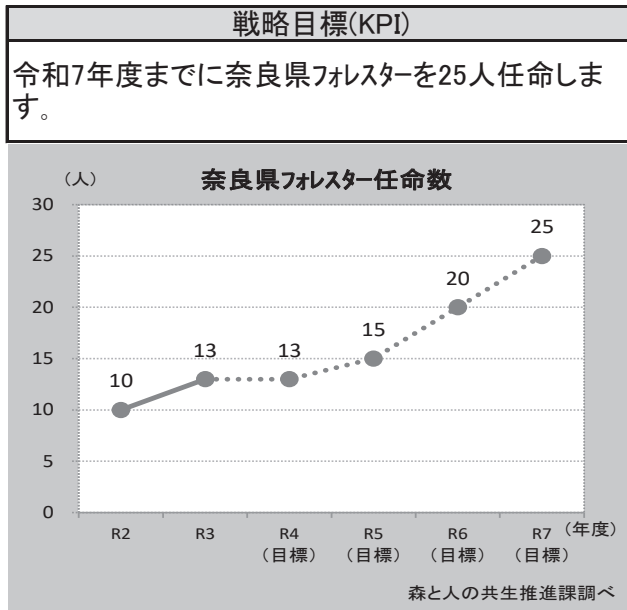
関連する戦略目標(KPI)の進捗状況

テーマ	戦略目標(KPI)	基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
				目安値(b)	進捗率(a/b)	
(120)	新たな森林環境管理制度の構築 令和7年度までに奈良県フォレスターを25人任命します。	R2年度 10	↑ 13	R3年度 13	100.0% ①100%以上	R7年度 25 (20.0%)
(121)	奈良県フォレスター制度の確立、フォレスターアカデミーの運営 令和7年度までに森林環境管理士を40人、森林環境管理作業士を50人養成します。	R2年度 0	↗ -	R3年度 -	R3年度	R7年度 40 -
		管理士 0	↗ -			
		作業士 0	↑ +2人 2	10	20.0% ③90%未満	50 (4.0%)
(122)	森林の防災機能の向上 令和7年度までに混交林への誘導を1,100ha行います。	R2年度 0	↑ +45ha 45	R3年度 220	20.5% ③90%未満	R7年度 1,100 (4.1%)
(123)	奈良県産材の安定供給及び利用の促進、奈良の木プラント戦略 令和7年度までに木材生産量を20万m ³ にします。	H27年 171	↓ ▲14千m ³ 157	R2年 185.5	84.6% ③90%未満	R7年 200 (基準値未満)

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	24 森林環境管理・林業振興
テーマ	(120) 新たな森林環境管理制度の構築

CC(チーフコーディネーター)
水循環・森林・景観環境部
森と人の共生推進課長



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値(達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
R2年度	R3年度	R3年度	100.0%	R7年度
10	+3人	13	①100%以上	25 (20.0%)

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

令和5年度からの奈良県フォスター市町村配置に向け、令和2年度に10名、令和3年度に13名のフォスターを任命し、順調に進捗しています。

背景・要因等

令和2年3月に「森林と人の共生条例」及び「県産材利用促進条例」を制定しました。さらに、令和3年3月には「奈良県森林環境の維持向上及び県産材の利用促進に関する指針」を策定し、新たな森林環境管理制度の方向性を明確にしました。こうした条例や指針に基づき奈良県フォスターを任命しています。

KPI達成に向けた取組・成果		
取組	令和3年4月に奈良県フォスターアカデミーを開校しました。奈良県フォスターアカデミーにおいて、森林管理職として採用した県職員を奈良県フォスターに養成しています。	成果
		県森林管理職については、令和3年度に6名、令和4年度に3名採用し、フォスターアカデミーにおいて奈良県フォスターを養成しています。将来の奈良県フォスターが着実に増加しています。

KPI関連指標	指標の動き		指標の動きの要因
県森林管理職採用人数[累計](人)	R3年度	↑	奈良県の森林管理に関心のある多数の者が県職員の採用試験に応募(R3年度倍率20倍、R4年度倍率15倍)し、合格者はフォスターアカデミーにおいて修学中です。
	6	+3人	
	R4年度		
			9

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

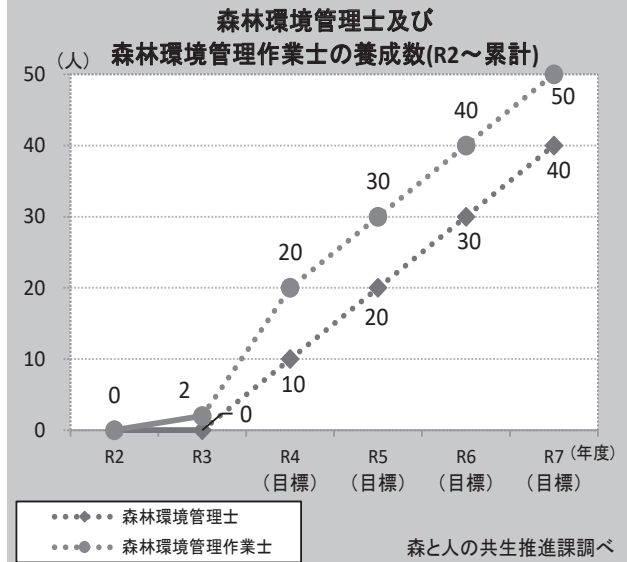
KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
令和5年度からの奈良県フォスターの市町村配置に向けた条件整備と、市町村配置後に即戦力となり活躍する人材を養成する必要があります。	全国的に初めての取組であり、他府県に事例がありません。	令和4年6月に実施した奈良県フォスター受入の意向確認の結果を踏まえ、市町村との調整を図ります。また、市町村配置の方法等について、総務省・林野庁との調整を図ります。
	今年度の取組(~7月)	
	令和4年6月に市町村に奈良県フォスター受入の意向確認を実施しました。	県森林管理職2年生は受入希望のある市町村において、インターンシップ等により配置後の市町村業務の体験をします。

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	24 森林環境管理・林業振興
テーマ	(121) 奈良県フォレスター制度の確立、フォレスターアカデミーの運営

CC(チーフコーディネーター)
水循環・森林・景観環境部
森と人の共生推進課長

戦略目標(KPI)
令和7年度までに森林環境管理士を40人、森林環境管理作業士を50人養成します。



	基準値	実績値 (a)	進捗状況		目標値 (達成率)
			目安値(b)	進捗率(a/b)	
管理士	R2年度	R3年度	R3年度		R7年度
	0	-	(注)		40
作業士	0	+2人	10	20.0%	50 (4.0%)

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)
 令和3年度はフォレスター学科に17名、作業員学科に3名が入学し、作業員学科3名のうち1名はフォレスター学科に転入、他の2名は森林環境管理作業士の資格を取得しました。

背景・要因等
 令和3年4月に奈良県フォレスターアカデミーを開校しました。
 フォレスター学科(2年制):奈良県フォレスターに必要な知識・技能を修学(森林環境管理士取得)
 森林作業員学科(1年制):安全かつ効率的な作業ができる知識・技能を修学(森林環境管理作業士取得)
 令和3年度については、他府県の林業大学校にはない森林管理の総合プロデューサーを養成する2年制のフォレスター学科への入学者が多く、作業員学科の入学者が少なかったことが目標人数に達しなかった要因です。

(注)フォレスター学科(2年制)卒業時に資格取得のため、R3年度は資格取得対象者なし。R4年度以降、目安値を設定。

KPI達成に向けた取組・成果	
取組	フォレスターアカデミーに入学した学生全員が、森林環境管理士又は森林環境管理作業士の資格を取得できるよう、単位取得及び学業への専念についてサポートしました。
成果	緑の青年就業準備給付金を令和3年度に9名に給付し、安定した学生生活に対して支援しました。

KPI関連指標	指標の動き		指標の動きの要因
フォレスター学科入学者数[累計](人)	R3年度	R4年度	学校概要の配布、高校への訪問、オープンキャンパスの開催、林業就業相談会への参加、SNS発信等学生確保に向けたPR活動を行いました。
	17	+13人 30	
森林作業員学科入学者数[累計](人)	R3年度	R4年度	
	3	+6人 9	

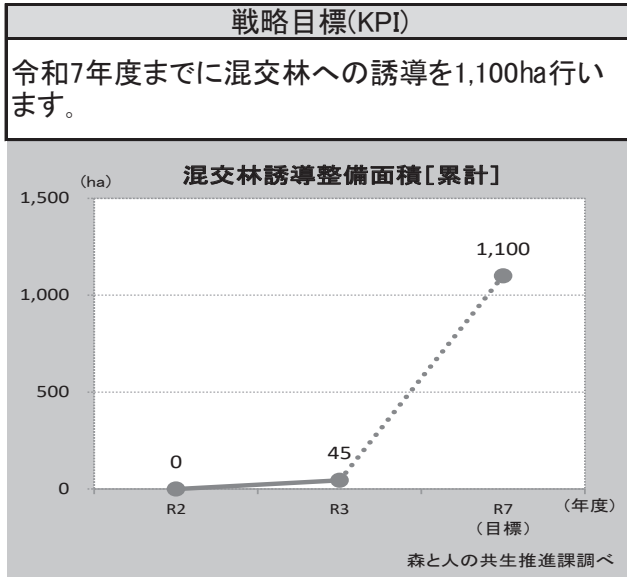
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
学生の確保が課題となります。	「林業」は体力がいる仕事、危険な仕事というイメージを持っている人が多いことが考えられます。	アラン・コッハー名誉校長(スイスのリース林業教育センター元校長)や各分野の有識者からのアドバイス、カリキュラムの課題とその解決方法の洗い出しから、他府県の林業大学校にはない特色や魅力のある学校を目指します。
	今年度の取組(~7月) 令和4年6月に県内の高校等に学生募集の案内通知や広報活動を行うとともに、夏にはフォレスターアカデミーの学生が主体となって、広く一般の人を対象に学校の授業内容や森の恵みや働きについて体験してもらう「森の学校」イベントを実施しました。	
		学生の卒業後の就職先を確保し、学生に安定して就職先を斡旋することで、就職にも強い学校を目指します。

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	24 森林環境管理・林業振興
テーマ	(122) 森林の防災機能の向上

CC(チーフコーディネーター)
水循環・森林・景観環境部
森と人の共生推進課長



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値 (達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
R2年度	R3年度 45	R3年度	20.5%	R7年度
0		220	③90%未満	1,100 (4.1%)

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

事業開始初年度の令和3年度は45haの整備実績に留まりました。

背景・要因等

県内においてスキ・ヒキ人工林率が60%以上占める中で、広葉樹を植栽し、混交林化するという全国的にも類似事業がないこと、また、新型コロナウイルス感染症の影響により、市町村や森林組合、森林所有者等に対する説明会の開催回数が少なかったことが目安値を下回った要因と考えます。

KPI達成に向けた取組・成果		
取組	令和2年3月「森林と人の共生条例」の制定により、恒続林、適正人工林、自然林及び天然林を目指すべき森林として誘導していくことを規定しました。	成果
		条例に基づき、令和3年3月「奈良県森林環境の維持向上及び県産材の利用促進に関する指針」を策定し、新たな森林環境管理制度の方向性を明確にしました。そのなかで、令和3～7年度の5ヶ年で1,100haを混交林へ誘導整備することを目標値として決めました。

KPI関連指標	指標の動き	指標の動きの要因
整備実施市町村数 [累計](市町村)	R3年度 14	市町村を対象に説明会を実施し、事業の必要性の周知をしました。
恒続林化促進モデル市町村数 [累計](市町村)	R3年度 5	事業促進のためにモデル市町村を設定して県と市町村が連携して、事業候補地の選定等を行いました。

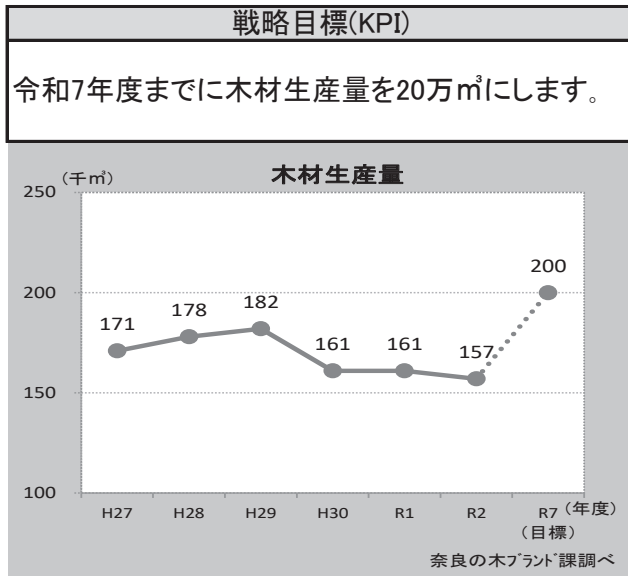
進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
事業候補地の確保が困難な状況にあります。	森林所有者の世代交代や不在村所有者の増加等により、施業放置林の所有者・境界確定が困難となっていることが要因です。また、全国初の取組のため、森林所有者から事業内容の理解が得られていないことも要因の1つです。	市町村が森林所有者に対して実施する森林管理の意向調査結果を活用することにより、混交林への誘導整備に関心のある者にアプローチを行います。承諾が得られる場合には、具体の計画策定を市町村に支援するなど、関係機関が一丸となって指導していくことで、整備計画の策定を着実に進めていきます。
	<p>今年度の取組(～7月)</p> <p>計画的に事業地を確保するため、令和4年6月に森林地番図作成及び計画策定メニューを追加し、市町村等の関係団体に説明を行いました。</p>	

各テーマの戦略目標(KPI)達成に向けた進捗状況

坊	24 森林環境管理・林業振興
テーマ	(123) 奈良県産材の安定供給及び利用の促進、奈良の木ブランド戦略

CC(チーフコーディネーター)
水循環・森林・景観環境部 奈良の木ブランド課長



基準値	実績値(a)	進捗状況		目標値 (達成率)
		目安値(b)	進捗率(a/b)	
H27年度	R2年度	R2年度	84.6%	R7年度
171	▲14 千 ³ m	185.5	③90%未満	200 (基準値未満)

指標の評価(基準値からの動向、直近の動き、進捗状況等)

木材(原木)生産量の実績値について、平成27年度から平成29年度までは増加傾向を示しましたが、平成30年度以降は減少傾向を示しており、基準値を下回っています。

背景・要因等

住宅、公共建築物、商業施設や宿泊施設、暮らしの中で用いる木製品、エネルギーなど、多岐にわたる分野での県産材利用に向けた施策を推進してきました。その結果、エネルギー利用に向けられる木材生産量は堅調に増加しましたが、建築物等への利用が減少しており、全体として、進捗率は低い水準となっています。

KPI達成に向けた取組・成果	
取組①	県産材の販路拡大を図るため、木材関係団体および木材・木製品製造事業者と連携しながら、首都圏等における建築関係者等へのセールス活動や、展示・商談会への出展、PRイベントの実施等に取り組み、吉野材に代表される奈良の木のPRを行いました。
成果①	奈良の木のPRでは県内64事業者の木材・木製品を取り上げ、それら製品を通じて、奈良の木の認知度を高めることができました。
取組②	公共建築物等への県産材の利用促進を目的に、建築関係団体と連携し、木材利用の意義、木造・木質化のメリット、木造建築物ができるまでの流れ、木造・木質化の事例などをわかりやすく解説した、発注者向け手引きを作成しました。
成果②	発注者向け手引きを各市町村等へ配布・共有することで、建築物の木造・木質化に取り組みやすくなるような環境整備が進みました。

KPI関連指標	指標の動き				指標の動きの要因			
ポータルサイト「奈良の木のここと」のユニークユーザー数[累計](人)	H30年度	↗	R1年度	↗	R2年度	↗	R3年度	ポータルサイトの更新・拡充と、SNSと連動したPRに取り組み、奈良の木ファンの獲得とコミュニティの拡大を進めたためです。
	27,878	+20,305 人	48,183	+4,985 人	53,168	+22,433 人	75,601	
県産製材品出荷量(千 ³ m)	H29年	↘	H30年	↘	R1年	↘	R2年	木材加工流通施設の設備整備支援等に取り組んでいますが、建築物等への利用が減少傾向にあります。
	76	▲5 千 ³ m	71	▲7 千 ³ m	64	▲9 千 ³ m	55	

進捗状況を踏まえた課題の明確化、課題解決のための今後の取組方針

KPI達成等に向けた課題	課題の背景・要因	課題解決のための今後の取組方針
県産製材品出荷量が減少傾向にあります。	県産製材品の主な使用先である木造住宅の着工数が減少しました。近年の木造建築では、JAS材などの品質・性能が明確な木材が求められます。また、建築関係者や消費者に、県産材(奈良の木)の利用の意義が十分に伝わっていない可能性があります。	木材加工流通施設の設備整備による木材加工の効率化等により、地域認証材やJAS材など品質・性能が明らかで競争力のある製品の流通を促進します。また、林内路網の整備、高性能林業機械等の導入による生産基盤の強化に加え、木材の搬出支援や未利用材の搬出促進を図ります。
	今年度の取組(～7月)	引き続き、奈良の木の認知度を高めるため、奈良の木の魅力を効果的に発信するとともに、首都圏等新たな需要が期待されるマーケットに対するプロモーションを行います。また、多岐にわたる分野での県産材利用を推進し、需要の拡大を図ります。